



問

ホップ・ステップ・ジャンプの3段階指導による作文教育を

手本となる文章の構造を把握して、次々と新しい文章を作成させる指導法がある。①まず教師が見本となる文章を作り、子どもたちに見せる。②次に教師がその見本の文章をもとに、子どもたちと一緒に作る。③最後に教師が題を示し、子どもたちが自力で作る。この3段階指導を繰り返すことで、子どもたちに「応用自作」の力を育み、作文の苦手意識をなくす作文教育を。

答

子ども一人一人に合った方法で指導を行っていく

作文の指導方法はさまざまで、議員が紹介した方法もそのうちの一つとして捉えている。

津市においては、教師からだけでなく友達から学ぶということも大切にしている。周囲には、いろいろな感性を持つ友達がいるので、友達と対話する中で自分が書きたいことを見つけて、作文の書き方をお互いに学び合っていくという指導も行っている。

まずは子ども一人一人にどのような力があるのか、また、どのようなところでつまづいているのかなどをしっかりと見極め、その子に合った方法で指導を行っていきたい。

その他の質疑・質問

- 平和大使派遣事業の考えは
- 津空襲体験の伝承は
- 香良洲歴史資料館に体験者証言映像コーナーを
- 岐阜空襲80年平和動画のような動画制作を
- 三重短期大学における生涯学習の機会について
- 科目等履修生制度とは
- ファイナンシャル・プランナー講座の開設を

空襲の悲惨さや残酷さを将来世代に伝え、平和への思いを深めるために製作された平和動画



出典：岐阜市HP



問

公共施設での固定電話契約の見直しで、コスト削減を

津市では、約300の公共施設で固定電話回線を契約し、年間約7,500万円の経費がかかっている。四日市市では当該契約について、一般競争入札を行うことにより、大幅な通信費の削減を見込んでいるが、津市においても、競争入札などを活用することによる経費削減を検討すべきではないか。

答

現状のサービスや他市の状況を踏まえ調査、研究を進めていく

津市の固定電話回線契約は従来からNTTの回線を採用しており、安価で、庁舎間の内線通話が無料となるひかり電話サービスに切り替えるなどして経費削減に努めてきた。

光コラボレーション事業者がNTTから光回線の提供を受け、自社のサービスを組み合わせて提供する固定電話回線サービスが始まり、通話品質、災害時における優先使用、停電時における対応についてNTTと同等のサービスとなってきたことや基本料金・通話料の価格競争が発生している状況を踏まえ、他市の事例も参考に、当該契約に関する調査、研究を進めていく。

その他の質疑・質問

- 議案第103号 市の区域に新たに土地を生じたことの確認について
- 津興橋の架け替えについて
- 新型コロナワクチンの定期接種について
- 学校給食における米の安定的な確保について
- 太陽光発電設備の増加に伴う課題と津市の対応は

など

架け替え工事が進められている津興橋

